

実際にあられた誤答について

著者	鐙木 光朗
雑誌名	高校教育研究
号	14
ページ	67-75
発行年	1963-03-10
URL	http://hdl.handle.net/2297/00063394



実際にあらわれた誤答について

金沢大学教育学部付属高等学校

鏑 木 光 朗

【一】

本調査の趣旨

I 誤答の一般的調査方法として、次の2方法が考えられる。

- (イ) 予め一定の意図をもって作製されたテストを生徒に課し、その結果の傾向を統計的にまとめてその原因を調査しその対策を考える。
- (ロ) 誤答調査を意図せず、無作為的に平素の中間、期末テスト、実力テスト及び平素の教室に於ける授業等あらゆる英語の指導面に偶発的に見出される誤答を記録収集し、個別にその原因、対策を考えようとするもの。

本調査は前年度に従って(ロ)の調査方法を取った。

II 方法——パンチカードによる収集過去一年の、前述テスト及び平素の指導面に於ける偶発的誤答を各教官パンチカードに記録し、その中代表的なものを、訳読、語句訳、文法、作文、の項目にわたり調査した。

尚、パンチカードでより分類せる事項は、記録者、対象学年、男女別、各項目(約30件)別にしたが、本調査には直接関係はなく後日の参考にする。

【二】

I 読解問題に於ける誤りについて

【問題文】 Just before reaching the bridge, the Cambridge stroke called on his men for a spurt. (二年中間テスト)

- 【誤答】 (1) 橋につく丁度前に、ケンブリッジの漕手は彼の人々にスパートすることを呼び掛けた。
- (2) その橋に到達する寸前に、ケンブリッジの整調手は彼の男たちに力走を要求した。
- (3) 橋につく直前、ケンブリッジの艇長は彼の仲間にスパートするようにと呼び掛けた。
- (4) 橋に達しようとしたその時、ケンブリッジの舵手はその選手達にスパートを起こせと叫んだ。

【原因と対策】 是は his men と called for の解釈が分っていない誤りである。his men は文全体から判断した適切な訳をする必要がある。又 called for は熟語として「要求する」と言う意味を知る必要がある。以上の誤りは要するに熟語の意味の把握が不十分なためである。英語の熟語の勉強を必要とする。

【問題文】 He tries to win, yet he is not so eager that he jumps in ahead of his turn. (二年年間テスト)

【誤 答】 (1) 彼は彼の順番が来る前に飛び込む様な熱心さではなく勝たうとする。
(2) 彼は勝たうとするが彼の番の前に飛び出す程それ程迄に切望してない。
(3) 彼は勝つことを試みる。然し未だ彼は彼の順番の前に飛び上る程には 欲していない。

【原因と対策】 以上, so eager that の構文の訳し方が出来ていない。この場合, 前からも後からも訳せるが完全な構文の把握が足りないための誤りである。

【問題文】 For a moment Cedric thought there was nobody in the room.
(二年リーダー)

【誤 答】 一瞬, セドリックは部屋には誰も居らなかったと思った。

【原因と対策】 生徒はしばしば語形から判断して, 上述の文の was を過去に訳すが, これは時制の一致で was になったので意味は現在であることを忘れている。文法知識の不足が解釈にも現れた例である。

【問題文】 He was so used to seeing people rather afraid and embarrassed before him. (二年リーダー)

【誤 答】 彼は彼の前で可成りに心配し, 困っている人々を見るのに大へん慣れていた。

【原因と対策】 上述の seeing 以下の文型V+O+O.C.をはっきり掴めず, rather afraid 以下を people にかかる形容句と考えている誤りである。文型の理解の不足と言える。

【問題文】 He is proud, stubborn old heart therefore had leaped within him.
(二年リーダー)

【誤 答】 彼の高慢な, がんこな年老いた心の故に, 彼の心は高ぶった。

【原因と対策】 上述の誤りは, therefore を接続詞と考えたためである。thereforeは 接続詞の役目もするが元来副詞であり, それ故に, 従ってと訳す。品詞の取り方をもっと勉強する必要がある。

II 語句の意味に於ける誤りについて

【問題文】 (1) keep A free of B. (2) be likely to~ (二年年間テスト)

【誤 答】 (1) BからAを除く。 (2) ~しそうな。あたかも~である。進んで~する。~に似ている。

【原因と対策】 大体の意味は分っていると思うが, 完全に把握していない誤りである。熟語の意味は一つ一つの語からも分るが, やはり全体としての意味を 掴む必要がある。

【問題文】 warship の意味。 (二年副読本)

【誤 答】 戦艦。

【原因と対策】 war 戦争+ship 船の様に考えるための誤りである。之に対する対策は上述と同じである。

【問題文】 some woman の意味, (二年副読本)

【誤 答】 いくらかの婦人。

【原因と対策】 some の意味を常にいくらかのと考えている誤りである。some の後に単

数形の名詞のあることに注意する必要がある。

【問題文】 the Danes, a Dane の意味。(二年副読本)

【誤答】 デーン人。

【原因と対策】 デンマーク人なる意味がとれず、形の上からデーン人と取る。特に歴史書からの影響と思われる。単語の意味は十分に辞書から覚えるようにし度いものである。

【問題文】 There is a mildness which at once banishes the idea of a savage.

(二年副読本)

【誤答】 野ばんな考えを直ちに消すおだやかさがある。

【原因と対策】 a savage を野ばん人と取らず、野ばんと考えた誤りである。意味の把握が十分でない。

【問題文】 The bonfires illuminated the surrounding trees. (二年副読本)

【誤答】 そのかがり火は木々のまわりを照らしていた。

【原因と対策】 上述の誤りは surrounding が trees を形容していることを忘れた誤りである。周囲の木々と訳すべきである。

【問題文】 be about to の意味。(二年中間テスト)

【誤答】 ～について (to) 以下の事をする。

【原因と対策】 この誤りは、about の意味から考えた誤りである。熟語としての be about to の意味をしっかりと擱んでいない。

【問題文】 be friends with～の意味。(二年中間テスト)

【誤答】 ～と一所な友達、友達と一所に、友人と一共に～する。

【原因と対策】 この誤りも上述の be about to の場合と同じである。一つ一つの意味から考えた意味で、全体としての熟語の意味の把握が不十分なためである。

III 文法問題に於ける誤りについて

(1) 書き換え問題について

【問題文】 I make it a rule to go to bed at ten. (三年実力テスト)

I am _____

【誤答】 (1) I am a habit of going to bed at ten.

(2) I am making to go to bed at ten,

(3) I am used to going bed at ten.

(4) I am ruled to go to bed at ten.

【原因と対策】 是の誤りは be in the habit of～ing の構文をしっかりと擱んでいないためと、be used to と used to の意味の相異に気づかないためである。特に(1)の誤りは不十分な熟語の暗記から来たものである。これの対策としては、しっかりした熟語の把握と練習(用法上の)である。

【問題文】 I wish you had been more careful. (三年実力テスト)

You _____

【誤答】 (1) You must be more careful.

(2) You had better to take more carefully.

(3) You should be more careful.

- (4) You might be more careful.
 (5) You ought to be more careful.

【原因と対策】 以上 should have been に直す文の形をしっかりと掴んでいないための誤りである。must, ought to, should, might 等の助動詞を使うことには気付いているが、その後に来る動詞の時制が出来ていない。仮定法に於ける動詞の時制をもっとしっかり学ぶ必要がある。

【問題文】 He was trusted by his friends as he was honest. (三年実力テスト)
 His honesty _____

- 【誤答】 (1) His honesty trusted him by his friends.
 (2) His honesty trusted his friends.
 (3) His honesty trusted him with his friends.

【原因と対策】 以上の誤りは文全体の意味をしっかりと掴んでいないためである。文法の問題に於ては尚更文の意味が分らねば解けない場合が多い。生徒にもっと意味の把握から始めることを強調し度い。

【問題文】 He is such a perfect fool that he is not able to see that. (単文に直せ)
 (三年選択)

- 【誤答】 (1) He is too fool to see that.
 (2) He is a perfect fool enough not to see that.
 (3) He is a perfect fool not to be able to see that.
 (4) He is a too perfect fool to see that.

【原因と対策】 以上の誤りは too~to なる構文に直すこと迄は分っているが、too perfect a fool なる語順を忘れた誤りである。too が副詞であることを忘れてはいけない。too~to の完全なる理解を望む。

【問題文】 Another step before my fall, and the world would have seen me no more. (節を用ひて) (三年選択)

- 【誤答】 (1) If I had another step before my fall,
 (2) If I stepped another before my fall,
 (3) If I did another step before my fall,
 (4) If I have stepped another before my fall,

【原因と対策】 以上の誤りは皆 If-clause 中の動詞の時制の誤りである。之は仮定法の用法及び文形をしっかりとつかんでいないためである。

【問題文】 There is no possibility that he will mend his mode of life.
 (単文に直せ) (二年中間テスト)

- 【誤答】 (1) There is no possibility being to mend his mode of life.
 (2) He will mend his mode of life is not possible.
 (3) He will not mend possibility his mode of life.

【原因と対策】 以上の誤りは単文なる意味を理解していないのと問題文の構文をしっかりと掴んでいないために由る誤りである。要は全文の意味をしっかりと理解していないからで文法問題と言えども意味の把握に注意することが必要である。

【問題文】 A girl should not expect special priviledges merely because of her

sex. (節を用いて) (二年中間テスト)

- 【誤答】 (1) Being of her sex, a girl should not expect special priviledges.
(2) A girl should not expect special priviledges meley for her sex.
(3) A girl should not expect special priviledges only of her sex.

【原因と対策】 以上の誤りを見て分るように、節 (clause) の理解が十分でない。節を含む文と単文とを一所にしている。もっと生徒に文とか節の理解を文法書により例文を引いて学ばせる要がある。

【問題文】 It is impossible to know who will become great. (動名詞を用いて)
(三年中間テスト)

- 【誤答】 (1) It is impossible of knowing who will become great
(2) It is impossible to know whose becoming great.
(3) It is no knowing who will become great.
(4) It is impossible knowing one's becoming great.

【原因と対策】 以上の誤りは何れも There is no~ing なる構文を明確に掴んでいないための誤りである。全然意味をなしていない文を作って居る者が多い。やはり問題文の意味をはっきり理解してないためである。

【問題文】 He ordered an extra day to be added to the month. (節を用いて)
(三年中間テスト)

- 【誤答】 (1) He ordered that an extra day is added to the month.
(2) He ordered that an extra day should added to the month.
(3) He ordered that an extra day be added to the month.
(4) He ordered that an extra day was added to the month.

【原因と対策】 以上の誤りは that 以下が should be added になる時制を誤ったもので、はっきりした時制の理解が不十分なためである。受動形についての基本的なことに対する知識も不十分である。

【問題文】 It would be cruel to make his negligence the point of your reply.
(節を用いて) (三年中間テスト)

【誤答】 It would be cruel if you make.....

【原因と対策】 以上の文は仮定であり、if clause 中は過去時制になるべきだが、単に make と現在時制にしているのは、仮定法のしっかりした理解が足りないためである。英語の仮定法は重要なので徹底した理解が望ましい。

【問題文】 He repents that he was idle in his youth. (動名詞を用いて単文に)
(三年中間テスト)

- 【誤答】 (1) He repents of his having idle in his youth.
(2) he repents for being idle in his youth.
(3) He repents his being idle in his youth.

【原因と対策】 以上、repentsの後に of なる前置詞を置くことと、その後の時制がhaving + Past Participle になることが分らないための誤りである。これは完了動名詞の用法を十分研究する必要があることを痛感する。

【問題文】 He insisted on my paying the money at once. (三年中間テスト)

- 【誤答】 (1) He insisted to me to pay the money at once.
 (2) He insisted that I payed the money at once.
 (3) He insisted on that I should pay the money at once.
 (4) He insisted that he payed the money at once.

【原因と対策】 以上の如く、that clause 中を I should pay とすべきを I paid とした生徒が多い。insist に強い要求の意味があり、that clause 中に should が必要となるのである。又 insist の後に that clause の来る時は on が無くなる。之等は文法をもっと学ぶ必要があると思う。

(2) 誤文訂正問題について

【問題文】 There is no need in helping the idle. (三年中間テスト)

- 【誤答】 (1) There is no nessity in.....
 (2) There is no need to.....
 (3) There is no use helping.....
 (4) There is nothing helping.....
 (5) There is need not helping.....

【原因と対策】 以上いろいろの誤りがあるが、結局は There is no need for (又は of) 又は There is no need to help なる構文の把握が不十分なためである。

【問題文】 I shall be ready after about five minutes. (三年中間テスト)

- 【誤答】 (1). About five minutes later
 (2) about after five minutes
 (3) for about five minutes
 (4) I shall have been
 (5) be ready to
 (6) I should
 (7) of within after
 (8) at about
 (9) I am ready
 (10) to about

【原因と対策】 以上いろいろな誤りがあるが、after の個処を直すことは大体気付いている。然し全体の意味を良く考えずに何かの前置詞を入れようとする傾向が多い。意味をつかむ練習が必要である。

【問題文】 He had a large household to provide. (三年中間テスト)

- 【誤答】 (1) for provide
 (2) provide with
 (3) provided
 (4) on provide
 (5) provide of
 (6) a great household
 (7) provide himself
 (8) at provide

(9) provide in

【原因と対策】 以上種々の誤りがあるが、provide の後に何か前置詞を補うことは大部分の者が分っているようであるが、正しい語を入れることが出来ない。withが多いが、この場合は forである。provide for なる熟語を十分覚えていないためである。熟語の習熟に注意し度い。

【問題文】 You had better not to go to such a place. (二年期末テスト)

【誤答】 (1) You had not better to go to such a place.

(2) You had better not to go such a place.

【原因と対策】 是の誤りは、had better の後には動詞の原形 (to) の無い不定詞が来ることを十分知っていないためである。had better は殆んど助動詞と同じ働きをすることは文法で学ぶことである。基礎的な文法事項はしっかり修得する必要がある。

(3) 空所補充問題について

【問題文】 You will be only an annoyance, if you do not (1) your mind (2) the game. (二年中間テスト)

【誤答】 (1) set, find, care, feel, interest, put, do

(2) in, for, to, up, of, at

【原因と対策】 上述の問題は keep (have) one's mind on (upon) a person なる熟語の問題であるが、やはり熟語の用法を十分理解してないための誤りである。全体の意味より判断して空所を充すべきである。平生より熟語の勉強が必要である。

【問題文】 Seldom are there (1) many people in a school (2) those who come to large public meeting places. (二年中間テスト)

【誤答】 (1) not, as, great, no, in

(2) that, than, who, place, of, such, but, also

【原因と対策】 是等の誤りは、not~so~as の構文が明らかにつかめてないための誤りである。この構文が分らなくとも全体の意味より判断して当然分ると思うが、この様な重要な構文は当然覚えて置くべきである。

【問題文】 There () no bus service, we had to walk all the way to the inn. (三年実力テスト)

【誤答】 (1) was (2) is (3) were (4) of (5) had been (6) runs (7) are (8) having (9) had (10) as

【原因と対策】 以上色々の誤りがあるが、大半の者は be 動詞を入れることは分っている様である。然しその分詞形 being を入れることが出来ない。これは全体の文の構造の把握が不十分なためと考えられる。分詞構文としての基本的な文は分っても、空所補充として出された時特に上述の如く There being なる形式は理解出来ないようである。文法の知識を更に望む

【問題文】 Walk about (1) a superior air as if only a few people (2) with your notice.

【誤答】 (1) there, in, such, have, by, on, to, as, so

(2) being, find, well, is, will, take, consider

【原因と対策】 以上いろいろの誤りがあるが、比較的多いのは、people were とすべきを are 又は is と現在形にした時制の誤りで、as if の構文の知識の不十分なためと考えられる。その他全然文とならない入れ方が多い。空所補充問題は文法問題と言うより意味の問題であることに深く注意すべきである。

IV 作文問題に於ける誤りについて

【問題文】 それらの質問を本当に理解することは幼児の興味の約象を知る一つの大きな手掛りになる。(三年実力テスト)

【誤答】 The true understanding them is a great clue to ……

【原因と対策】 Understanding them truly 又は the the true understanding of them とすべきところを誤ったもので、動名詞と、既に名詞となったものととの区別がはっきりしてないためである。これは文法の動名詞の項目で学習する筈であり、作文問題は特に文法知識を必要とすることを痛感する。

【問題文】 そういう王様を持つことは愚かなことだと君は思いますか。(二年中間テスト)

【誤答】 Do you think that it is foolish to have so king?

【原因と対策】 100人中10人が such king とすべきところを so king としている。so は副詞であることを十分知っていても実際問題となると、日本語につられて、以上の如き誤りを犯す者が多い。もっと英文に習熟する必要があると思う。

【問題文】 Because he was ill. に対する問いの文の作製

【誤答】 Why did he absent from school? (年学期末テスト)

【原因と対策】 was とすべきを did とする。これは、absent を動詞と思い込んでいるため、why did ……とするのであると思う。be absent として覚えた方が absent を単独に覚えるより作文その他の場合誤りを犯すことを避けられると思う。

【問題文】 子供達が何に興味を持っているかを知るかぎの一つ。

【誤答】 ……one of the keys to know what children are interesting

(三年実力テスト)

【原因と対策】 are interested in とすべきを interesting in とする。これは be interestted in なる熟語をしっかりと覚えていないためであると思う。基本熟語はもっとしっかりと覚えて置くことが作文上達のかぎであることを生徒に分らせる必要がある。

結 語

以上英語の学習上生徒が実際に犯す誤りについて、解釈の場合、文法の場合、語句の場合、作文の場合等に分けて述べたのであるが、短い期間に集めた僅かな誤りであるので、誤り全体を通しての結論は述べることは出来ない。ただ一応代表的なものと思われる誤りを述べて来たので、それ等について感じた考えを最後に述べて見度い。前述の原因と対策にも述べたと思うが、生徒の犯す誤りは、全然問題が理解出来ずに犯すでたらめの誤りは別として、大部分のものは、不注意な誤り、又は知識の不正確な誤りである。不注意な誤りは、各人の注意に待たねばならないが、知識の不正確さから来る誤りは、更に知識を確

実に行うことにより直すことが出来ると思う。日頃の英語の勉強に於て、徹底して知識を覚える習慣を養うようにし度い。それには、教える側にあっても、生徒に反復して重要な事項を教え、分る迄質問して覚え込ませる熱意が大切ではないかと痛感する次第である。次に、それでは具体的に如何なる不正 確な誤りを犯しているかを述べて見度い。

(1) 全体の文の意味の把握の不足

一般に訳読、文法、作文等に於て、生徒はそれぞれを別々に考えて問題を解いているようである。之は良くないので、何れの問題に対しても、先ず全体の意味を十分に理解した上で対処すべきである。作文の場合は別としても、文法に於ても先ず問題文の意味が分らずに問題は解けないと思う。生徒にもっと問題文の文の意味の重要さを強調し度い。

(2) 単語、熟語の知識の不足

次に言い度いのは、単語、熟語の知識の不足である。文法問題にしても単語、熟語の意味を知っているか否かによって決まる問題も大変多い。訳読の場合は尚更である。生徒に単語、熟語の知識を多く、然かも確実にすることを更に切望し度い。

(3) 構文の理解不足

最後に最も大事なものは構文の理解である。この構文の理解不足から来る誤りの多いことは、前述の例文を見ても分る通りである。生徒は大体の構文は分っているが、いざ問題を出すと誤るのは、構文を適確につかみ、その応用に習熟してないためである。リーダーや文法の時間に、もっと徹底して構文の把握に注意を向けるよう指導する必要を痛感する。

以上生徒の最も犯し易い誤りを三つの点にしぼって考えたわけであるが、今迄のテストの結果を考えて来た場合、生徒の犯す誤りは、解釈問題よりもむしろ文法問題に多いと言うことが出来ると思う。それは解釈問題は、文の前後の文脈から判断して何とか解決出来るが、文法問題の場合には、その問題そのものの意味も大事だが、むしろ文法上の知識がより多く必要だからである。先きに文法問題と言えども意味の把握を無視してはいけないことを述べたが、文法問題に於ては、問題文の意味が理解出来て、その上に文法上の知識があって始めて解決出来るのだと考えられる。

それ故、基礎的文法の知識は徹底して学ぶ必要があると思うのである。近年の入試問題を見るに、文法問題の出題は、全問題の一部であり、殆んど解釈問題であるが、普段のテストの誤りを見る時に、文法に対する知識の不足を依然として痛感するのである。

以上教える者としての立場から、生徒の犯した誤りについていろいろ私見を述べて来たのであるが、今後生徒を教えて行く場合の一助となれば幸いと思う次第である。